

牛久：学校周辺に見る自然

第19号 筑波実験植物園

2011年6月25日発行

< 植物園で昆虫観察 >



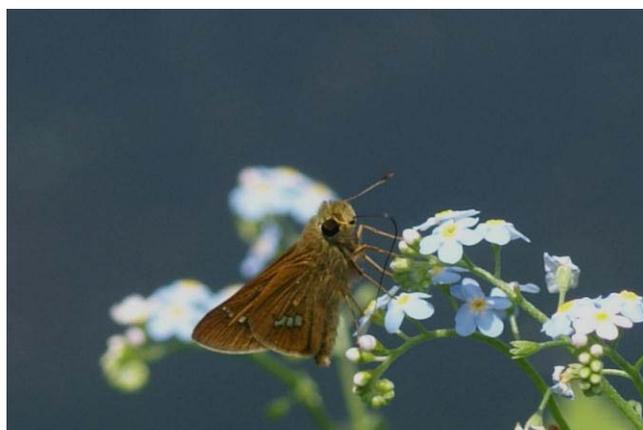
私は今年、筑波実験植物園^{つくばじっけんしよくぶつえん}で月に一度、樹木の勉強をしていて、その間に昆虫や鳥の写真も撮^とっています。いろいろな種類の草や木が育てられているからでしょうか、これまたいろいろな種類の昆虫や鳥などがやってきます。

今回は6/4の勉強会の日に撮った昆虫の仲間を紹介します。

まずは左のホソミオツネトンボ。何度か紹介していますね。22年度54号

スギナにとまるホソミオツネトンボ。鮮やかな水色の体が美しいに書いたように成虫で冬を越し、冬は茶色く枯れ枝のようですが、春になるとだんだん水色が強くなってきます。おもしろいですね。

次はチョウの仲間です。花も四季を通していろいろな種類が咲きますから、チョウもたくさん見られます。幼虫の食べる葉^{しょくそう}（食草という）の種類は決まっていますので、葉をよく探して幼虫やさなぎも見つけてみましょう。運がよいと、交尾^{こうび}や産卵^{さんらん}シーンも観察できますよ。また今回は特に載せませんが、ここでもやはり、もともとは南の地方のチョウであったツマグロヒョウモンやナガサキアゲハなどが多く見られるようになり気になっています。



エノキの葉に産卵するゴマダラチョウ(タテハチョウ科) ワスレナグサの蜜を吸うイチモンジセセリ(セセリチョウ科)



トペラの花蜜を吸うアオスジアゲハ(アゲハチョウ科) シャリンバイの蜜を吸うサトキマダラヒカゲ(タテハチョウ科)



続いてハチの仲間。シャリンバイが満開でチヨウやハチ、^{こうちゅうるい}甲虫類がたくさん訪れていましたが、今回見たハチは写真のセイヨウミツバチや他のハナバチの仲間がほとんどでした。どのハチもあしのつけ根の「花粉かご」が花粉でいっぱいに膨らんでいました。「花粉だんご」といって、巣に持ち帰り保存食にするのだそうです。

シャリンバイの花蜜を吸うセイヨウミツバチ(左)とハナバチの仲間(右)

ハチに姿がよく似ているものにハナアブの仲間がありますが、実はハエに近い仲間なのです。もちろん毒針はありません。花の^{みつ}蜜や花粉を食べます。



シャリンバイに来たアシブトハナアブ(左)とドクダミを訪れたキタヒメヒラタアブのメス(右)



カメムシの仲間もいろいろ見られます。左のカメムシは、背中のハートマークがおもしろいですね。エサキモンキツノカメムシといって、メスは卵の世話をするそうです。

右はナガメ。アブラナ科植物の汁を吸うので、「菜ガメ」。



キハダの葉の裏で交尾するエサキモンキツノカメムシ(左)とハマダイコンの汁を吸うナガメ(右)



最後に、シロテンハナムグリの仲間。「花むぐり」とはいうものの、花よりも樹液や果実に集まる仲間が多いようです。シャリンバイの花粉を食べていました。

いかがでしたか？ もうすぐ夏休み。あなたも植物園で昆虫観察はいかがですか？ もちろん植物も観察して下さいね。お互いみんなつながっているのですから。【理科支援員 宮内】